

住野泰清教授送別の辞

五十嵐良典

東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）教授

住野泰清教授は、平成29年3月31日をもちまして東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）教授を定年退職されます。先生は昭和51年3月に東邦大学医学部を卒業され、東邦大学附属大森病院で研修医をされました。昭和53年4月に東邦大学医学部内科学第2講座に入局されました。当時は阿部主任教授が医局を主催され、栄養代謝、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、心療内科、循環器内科などを抱える大医局に入局されました。その中で住野教授は、消化器内科を専攻することを希望されました。当時、消化器内科分野は安部井教授が担当されており、住野教授は、安部井教授の指導のもとで消化器内科、特に肝臓病学を専攻されました。昭和53年9月に恩賜財団済生会神奈川県病院に出向され、昭和58年6月には健康保険総合川崎中央病院に出向されました。住野教授は肝臓病学の中でも特に、超音波観測装置を用いた肝臓の超音波診断について研究されました。平成元年7月に東邦大学医学部内科学第2講座講師になられ、臨床・研究・教育に邁進されました。

平成2年7月から平成3年7月まで、米国のUniversity of Southern California, Liver Unitに留学され、肝臓病学について研究されました。帰国後は、肝臓病学および超音波画像診断に積極的に取り組み、平成6年12月に東邦大学医学部内科学第2講座助教授、平成11年3月に東邦大学医学部内科学第2講座教授になられ、肝臓グループのトップとして医局員を率いました。

平成14年4月より東邦大学医学部内科学第2講座の主任教授になりました。この時期は東邦大学の機構改革で内科学第1講座と内科学第2講座を解体し、臓器別内科を作ることになり大変苦労されました。そして平成15年4月に東邦大学医学部内科学講座（大森）消化器内科を三木名誉

教授と一緒に立ち上げ、現在の大森の消化器内科の基盤を作られました。この時期は、大森病院の副院長として3号館の竣工や運営、2号館の改修などを先頭に立ち指揮され無事に成し遂げられました。また副院長時代には、病院機能評価委員長として病院機能評価の認定に尽くされ、病院運営に貢献されました。このように医学部および大森病院に対する住野教授の貢献は計り知れないものがあります。

学会活動につきましても日本内科学会、日本超音波医学会をはじめ消化器内科関連学会の評議員、各種委員を務められ、消化器科学の発展、後進の育成に励まれたことは多くが認めるところであります。さらに腹部超音波領域における造影超音波診断にも多くの功績を挙げられ、特に肝疾患のびまん性変化の超音波診断では、学会のオピニオンリーダーとして貢献しており、会長を務められた第88回日本超音波医学会学術集会では約7000名が参加する盛会となりました。超音波医学の発展、後進の育成に励まれ、当大学の消化器内科の若い医師の学位論文を数多く指導いたしました。

私と住野教授とのお付き合いは、大森病院の消化器内科設立から始まり、現在も一緒に仕事をさせていただいております。医局員に対する熱心なご指導、学生に対する丁寧なご指導、患者さんに対する優しい診療、パラメディカルに対する細やかな対応など、どれも見習わなくてはならない態度と思い尊敬しておりました。

住野教授のご活躍の紹介は尽きませんが、定年に際して教室員一同、長年のご指導に感謝を申し上げるとともに、住野教授の今後のご活躍をお祈りして送別の辞とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。